

本文の修正と補足解説

2022.10.13 宮本恵子

▼1. 第6講「ion はイオンではありません：正しい英語の発音を確認」

元素記号の解説についての補足

- ・本講に誤解を生む表現がありましたので、以下のように訂正します。

p32 ページの上から2行目

「Fe, Cu, Pb の3つはフランス語の Fer, Cuivre, Plomb から来ているという**事実**は」

→

「Fe, Cu, Pb の3つはフランス語の Fer, Cuivre, Plomb に**類似**しているのは」

- ・本講では、元素の英語名を学びますが、元素記号についての解説 (31~32 頁) が説明不足でした。

本文中では

「元素記号は 1814 年にベルセリウス が考案したものにに基づき、ラテン語の 1、2 文字を取って作られ… (中略) …その後続々と新しい元素が発見され… (中略) …発見者に新元素の命名権がある」

とあり、続く以下の点に補足が必要です。

「元素記号のほとんどは現代の英語の元素名の頭文字 (または最初の 2 文字) に等しいが、中にはドイツ語やフランス語の元素名の (または最初の 2 文字) と等しいものがある。」

英語もフランス語もドイツ語もみなラテン語の影響を受けているため (ラテン語由来の単語がある)、それぞれの言語の言葉での頭文字と「等しいものがある」のであって、元素記号が英語やドイツ語、フランス語「から」作られたわけではないのです。

▼2. 第17講「動詞から作る形容詞：used solvent と solvent used はどう違う？」

「現在分詞形の動詞が使われているとき動詞の直前の名詞はその主語に相当する」

について

- ・本講では動詞の現在分詞形、過去分詞形が形容詞の働きをすることを解説しています (89-91 頁)。高校までの文法では、たいてい「現在分詞形の動詞が使われているとき動詞の直前の名詞はその主語に相当する」と習います。

たとえば、

A boy singing a song is my brother. (1)

というような文章です。

しかし、次のような英文はどう解釈できるでしょうか？

We need an oxygen producing green plant. (本文 91 頁、S. 39 と同文) (2)

「現在分詞形の動詞が使われているとき動詞の直前の名詞はその主語に相当する」という知識から解釈すると

We need an oxygen which produces green plant. (3)

となります。一見、これでも意味が通るようにも見えますが、この文は、①oxygen に an がついている、②green plant の前が無冠詞である、という点から間違いあることがわかります。

・(2)の文では「現在分詞形の動詞」直前の名詞 oxygen は動詞の主語ではなく目的語なのです。他によく知られている例として以下の例があります。

LED (light emitting diode、light は emit の目的語) (4)

文法的にはこれは「複合形容詞」と呼ばれるもので、正しくは形容詞の役割をする単語群をハイフンで結ぶ必要があります。

We need an oxygen-producing green plant. ((2)の正しい表記) (5)

論文(やインターネットにアップロードされている文)などではハイフンが落ちている場合が多々あります。そうした場合でも「正確に読み取れるように」との考えから本文を執筆したのですが、複合形容詞の解説が合わせてないと、かえって誤解を招くことに気が付きました。

現在は、むしろ複合形容詞を自分でも作れるように指導するほうがよいと考え、私のホームページ「宮本恵子の科学英語」(<http://scientific-english.moon.bindcloud.jp>)の「オンライン授業」の第8回で、

「複合形容詞」(<http://scientific-english.moon.bindcloud.jp/information.html>)

についてその作り方も含めて解説しています。動画とテキストの2種類で解説(内容は同じ)していますので、参考にいただければ幸いです。